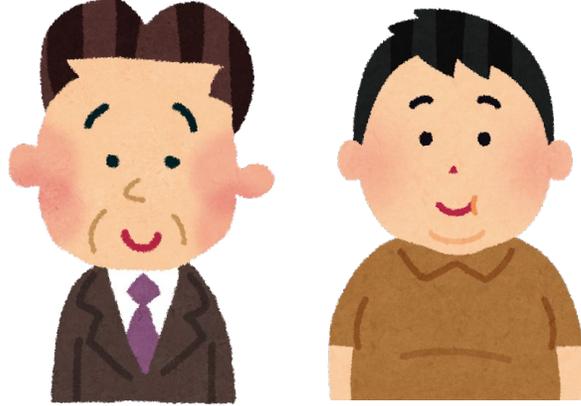


そけいヘルニアになりやすい人

加齢・性別

- ・特に40歳以上の男性



日常生活

- ・咳をよくする人
- ・妊娠している人
- ・過激な運動をする人
- ・重たいものをつねにかかえる



職業

- ・おなかに力がかかる仕事
- ・たちっぱなしの仕事

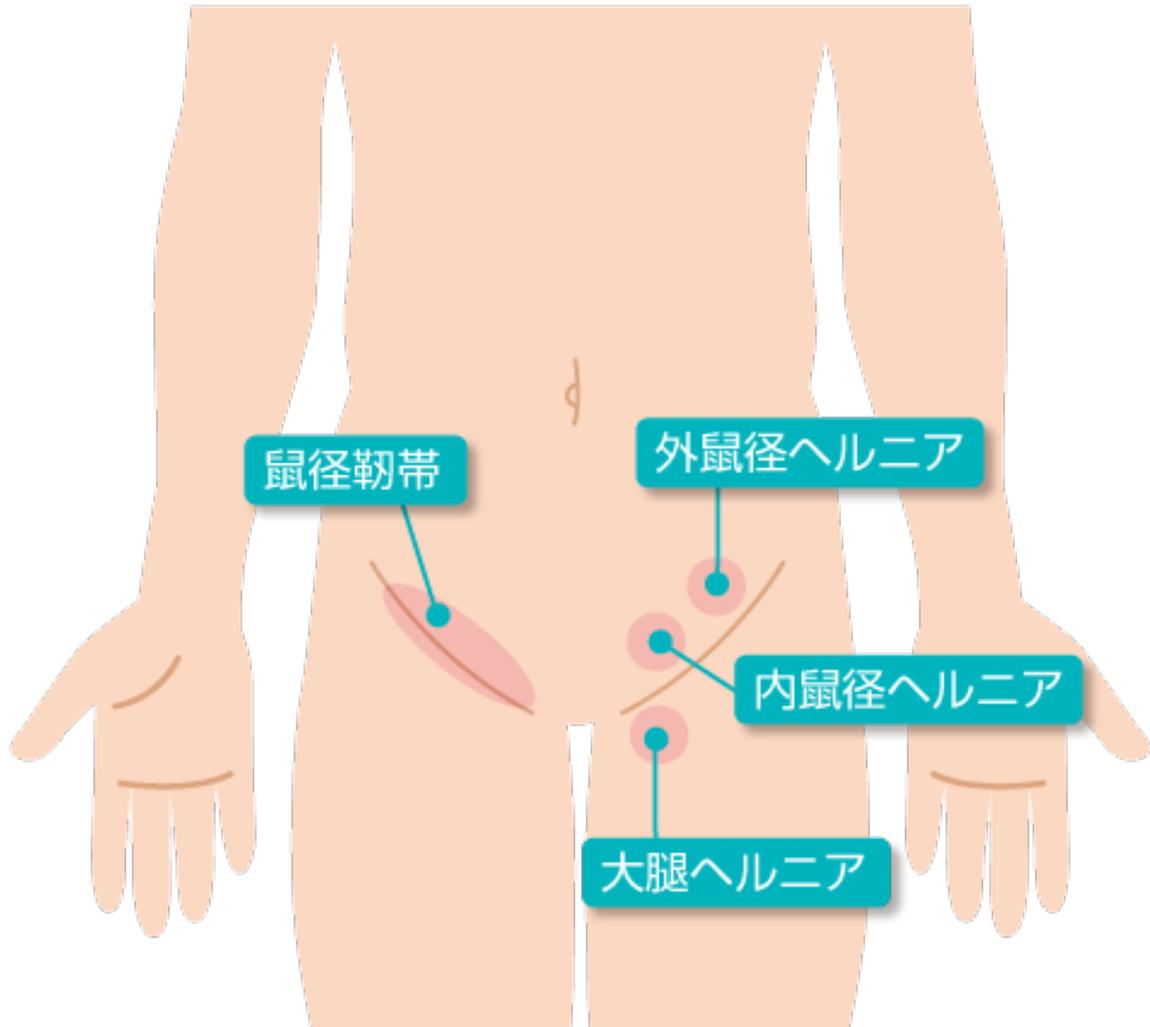


病気など

- ・肥満
- ・ぜんそく
- ・慢性肺疾患
- ・小児期のそけいヘルニアの既往
- ・前立腺手術の既往



そけい(鼠径)部ヘルニアには3つの種類があります



- ・外そけいヘルニア

そけい靭帯の上で外側から出てくる
一番多いタイプです

- ・内そけいヘルニア

そけい靭帯の上で内側から出てくる

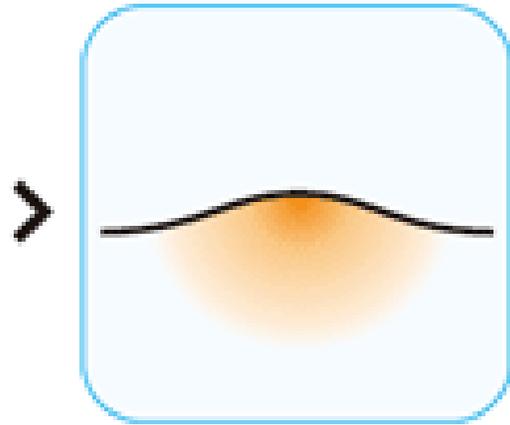
- ・大腿ヘルニア

そけい靭帯の下から出てくる
痩せた高齢女性に多くみられます

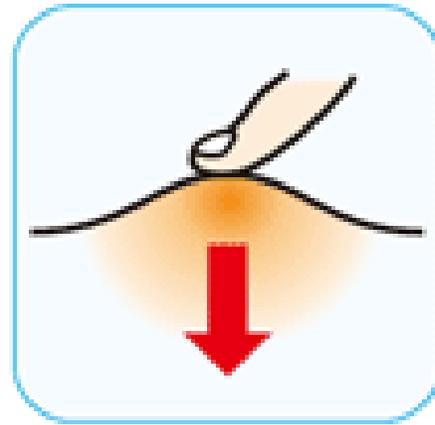
そけいヘルニアの症状とその進行



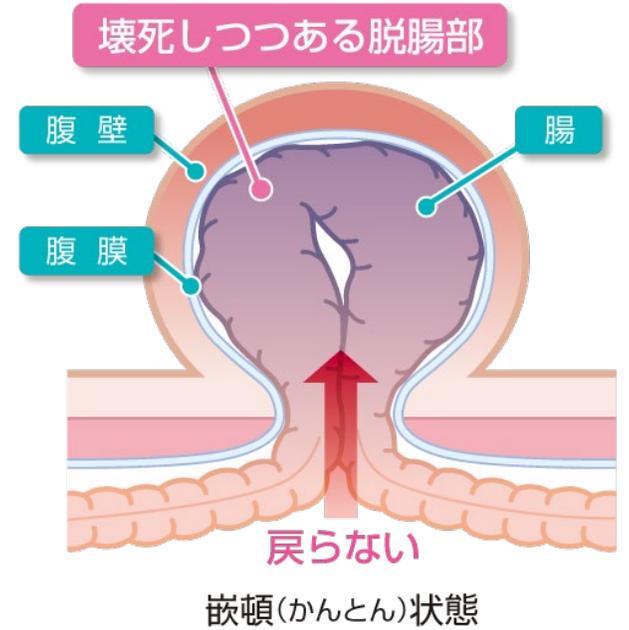
不快感や痛みを感じる
(個人差があり感じない方もおられます)



立った時やお腹に力を入れた時、そけい部に柔らかい腫れを感じる



徐々に大きくなるが指で押さえたり、横になると引っ込む



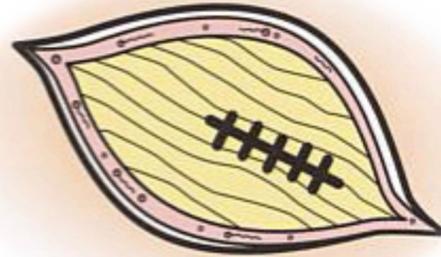
腫れが急に固くなり指で押さえても戻らなくなる。痛みもつよくなり、緊急手術が必要になります

そけいヘルニアの手術方法

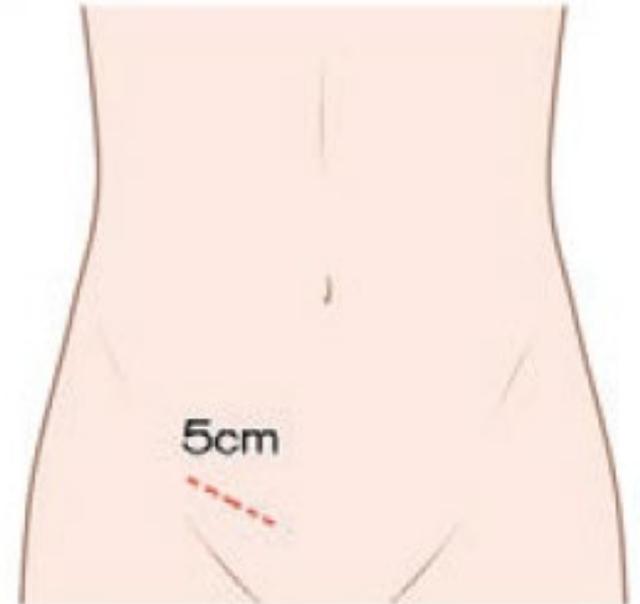
そけいヘルニアはお薬では治すことは出来ません
下腹部に腫れをみとめ、不快な症状がある場合は
当院の外科にご相談ください

従来法（メッシュを使わない）

ヘルニアの出口を糸で縫って塞ぐ方法
傷が大きく、痛みや違和感がつよい
入院期間も長い
再発率が高い

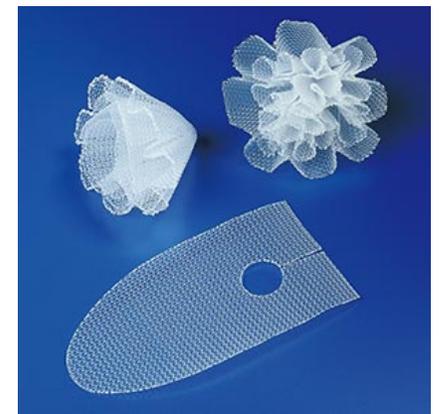
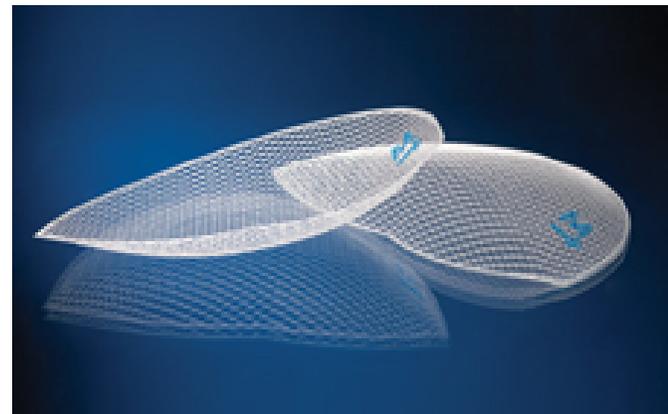


鼠径ヘルニア修復術(従来法)



従来法（メッシュを使う）

ヘルニアの出口にメッシュをあてて塞ぐ方法
傷が大きいですが組織を無理やり寄せないので
痛みや違和感は少なくなる
入院期間は短くなる



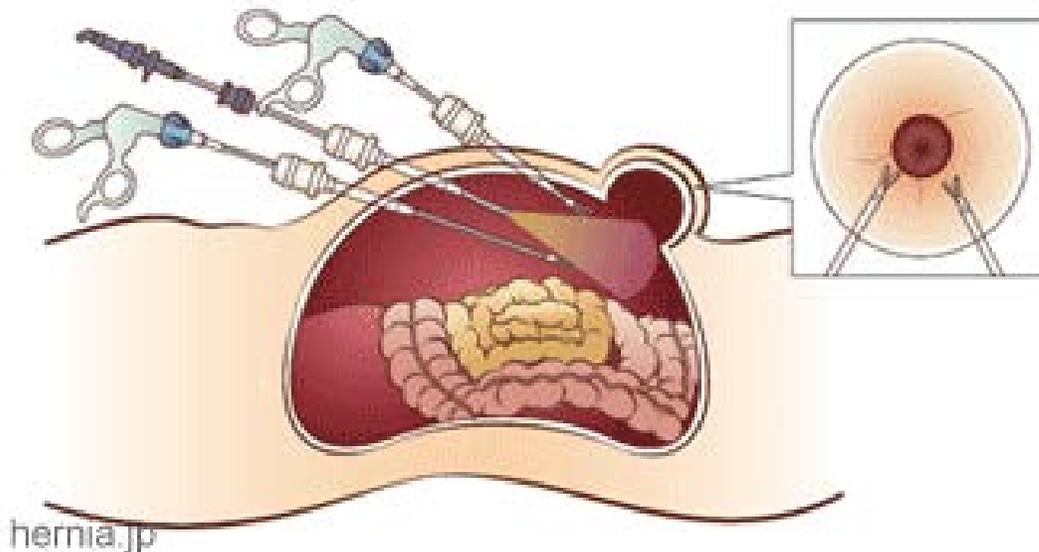
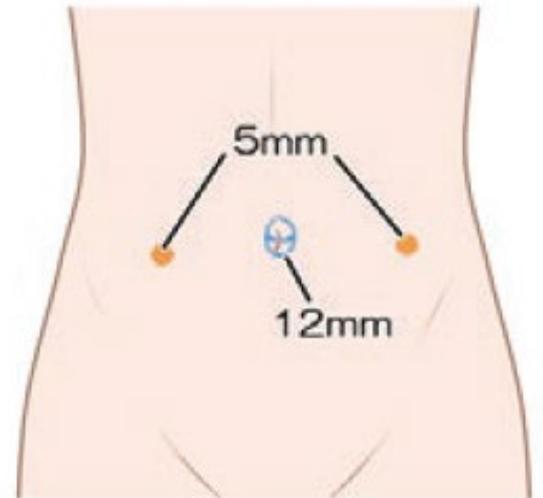
腹腔鏡下手術（TAPP法）

腹腔鏡を用いて小さい傷で行える手術法で、近年普及してきています
ポリプロピレン製メッシュでヘルニアの出口を内側から覆い穴を塞ぎます
メッシュは50年以上ほど前から使用されており安全性が確認されています

従来法との違い

- ・手術創が小さい（5-10mmの小さな穴が3カ所）
- ・術後の痛みが少ない
- ・手術時間は従来法と変わりません
- ・入院日数が短い
- ・再発率が低い
- ・両側にヘルニアが存在していても、傷を増やさずに同時に修復が可能

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術



術前・術後の経過と通院など

手術の前日に入院していただきます
傷は吸収糸で縫うため抜糸の必要は
なく、術後3-7日で退院可能です
(個人差があります)



退院後1度、外来で診察させていただきます
定期通院は不要ですが、術後の経過で
心配な点があればいつでも外来で主治
医に相談してください



日常生活について

入浴、座っての仕事や散歩などは退院後すぐ可能です



ゴルフなどの運動も退院後1週間で可能です



力仕事などは2-3週間後をめぐりにゆっくり始めてください

